

令和元年度第1回伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン懇談会 結果概要

◆日時 令和元年12月2日(月) 19:30~20:50

◆会場 伊勢市役所 東館 5階5-3会議室

◆出席委員

中西 文則委員、西山 敦委員、宮崎 吉博委員、齋藤 平委員、三浦 徹委員、
西村 純一委員、世古 晃文委員、松井 源紀委員、北山 勝彦委員、山北 佳宏委員、
田岡 悟委員

◆欠席委員

板井 正斉委員、加藤 徹也委員、酒徳 雅明委員、三村 和也委員、山添みゆき委員、
森下 清委員

◆出席職員

情報戦略局長、情報戦略局参事(企画調整課長)、企画調整課課長補佐、同課主査、
職員課長、交通政策課長、都市整備部次長、市民交流課副参事、広報広聴課長、
こども課長、教育研究所長、学校教育課長、同課主幹、社会教育課長、
こども発達支援室長、高齢者支援課長、健康課副参事、農林水産課長、商工労政課長、
同課副参事、観光誘客課長、観光振興課長
志摩市職員、玉城町職員、度会町職員

◆議事概要

1 事務局から新規委員の紹介

中西 文則委員、板井 正斉委員、三浦 徹委員、酒徳 雅明委員、北山 勝彦委員、
山添みゆき委員、田岡 悟委員の新規委員を紹介

2 正副会長の選出

事務局案に対して異議なしの声多数。会長は齋藤 平委員、副会長は中西 文則
委員とされた。

3 事項2「伊勢志摩定住自立圏の推進体制」について、新たな委員もみえるため、 改めて推進体制を事務局から説明

4 事項3「(第1次)伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン各取組の結果について」及 び事項4「第2次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン各取組の進捗について」を併せ て事務局から説明

(1) (第1次)共生ビジョンに掲げた全30の具体的取組に設ける46の成果指標
中、30が目標達成(65.2%)、16が未達成(34.8%)であった。

- ・未達成については、資料2のとおり、通し番号6「ファミリーサポートセンターの利用促進」、番号8「中小企業勤労者及び事業主への勤労者福祉制度の充実」、番号12「鳥獣被害防止対策」、番号14「伊勢熊野地域への旅客誘致」、番号15「伊勢志摩国立公園の自然保護、PR、地域振興」、番号16「廃止代替路線バスの維持」、番号25「出会い・結婚に関する情報提供等」、番号26「図書館サービスの新たな仕組み構築」、番号28「職員研修の合同開催」、番号29「教職員研修講座の実施」、番号30「青少年健全育成の合同研修会の開催」に係る成果指標

これらについては、第2次共生ビジョンで継続して取り組んでおり、資料3の取組事項の今後の方向性及び備考の内容のとおり進めていることを説明

(2) 第1次共生ビジョンの結果を踏まえて引き続き第2次共生ビジョンで取り組んでいる各具体的取組の実施スケジュールの進捗状況を確認

- ・51件の具体的内容中、46件が「順調」(90.2%)、5件が「遅れている」(9.8%)であった。
- ・進捗状況が「遅れている」の状況は資料3の6ページ「ファミリーサポートセンター提供会員の相互利用」の「提供会員数の拡大」、12ページ「創業に関する支援」の「創業に関する情報の収集・発信、共有」及び「創業希望者への補助の実施」、13ページ「鳥獣被害防止対策」の「連携して行う事業を検討」、28ページ「宮川流域情報の集約及び提供等」で、これらの取組は、当該記載ページの「今後の方向性」とおり進めていることを説明

(3) 委員意見・質問

- ・資料3の6ページの「ファミリーサポートセンター提供会員の相互利用」の利用者数については、資料2の過去からの実績をみるとH26からH30で1,000人近く減少しているが、これは少子化ということの要因もあるのではないかと。

⇒利用者が減少しているのは、幼稚園の認定こども園化など保育の受入枠を増やしていることによるものである。少子化も要因の一つであるが、保育の充実とともに利用者数が減っていると思われる。また、提供会員の減少については、会員の高齢化等によるものである。
- ・鳥獣被害については有効な対策は難しいと思う。熊本には、「くまもと農家ハンター」というのがあり、罾にAIを組み込んで、罾に入るとAIからスマホへ情報が行くといったものを取り入れているとのことであるため、そういった研究等をしていただきたい。

⇒伊勢市でも宮本地区のまちづくり協議会で獣害対策を行っており、その中で罾に入るとその情報が登録しているスマホ等へ行くといった取組をしているのでその効果をはかりながら、有効な取組を連携して進めるよう検討していきたい。

- ・農林水産省のホームページを見ると鳥獣被害で影響が大きいのはシカで、全体の8割とのことである。ひこばえを刈ってしまって里に獣を寄せ付けない対策が重要とのことである。また、鳥獣被害対策に関しては、鳥羽市長が罟の免許を取られたという情報があるので、今後も圏域で連携して進めていただきたい。
- ・資料3の12ページ「創業に関する支援」について、9月末の取組の実績が記載されているが、このセミナー参加者数は連携市町全ての合計なのか、また、補助の具体的な内容はどのようなものか。
⇒参加者数については、それぞれで開催している創業向けセミナーの合計である。補助件数については、実際に創業されて補助金を活用された方の件数で、内容については、市からの補助で新たに事業を開始する方に対する店舗の改装等への補助である。
- ・30ページの「教職員研修講座の実施」について、今回、順調に増えているが、教員の働き方改革が言われている中、文科省が長期休業期間中の研修の義務付けを廃止する報道があったかと思う。こうしたこともあるため、研修については、内容について他の研修と連携していくことは可能であるか。
⇒働き方改革により社会が大きく動くときではあるが、現場の指導要領の改訂等に伴って、或いはICTの活用能力を先生方につけていただきたいということもあり、研修の回数を減らすのは厳しいと考えている。先生方にとって魅力ある研修をしていきたいため、他市町と連携ができればぜひやっていきたいと思っている。

5 取組の状況について

昨年度新たに協定を締結して進めている「児童発達支援センターの設置、運営」の状況と、圏域で進めている「伊勢志摩ご当地ナンバー」の状況を報告

- ・児童発達支援センターについては、いせトピア付近に建設予定で、令和2年11月の完成予定としている。
- ・伊勢志摩ご当地ナンバーについては、令和2年5月頃交付予定である。

6 圏域の現況や課題等に係る意見・質問等

【委員意見・質問】

- ・休日・夜間応急診療所への医師、職員の災害時の出勤についてであるが、台風で警報がでており、医師が車で出勤できない状況を連絡したら、タクシーで来てほしいとの対応があった。最近では、災害時には、休診とする方針ができたが、医師だけでなく、そこで働く職員への配慮を忘れないようにしていただきたい。また、厚生労働省公表の地域医療構想の内容が新聞、週刊誌で取り上げられたが、そこでは、伊勢総合病院と南勢町立病院が整理される方の病院として紹介がされ

ていた。そのことにより、職員のモチベーション、また今後そこへ就職しようとする優秀な人材への影響から大変残念なことであると感じた。この2点についていかがか。

⇒近年、災害が大きくなってきていることから、他の自治体も参考にして、従事していただく先生、スタッフ全員の命を守るため、災害の警報が出た場合は、休診するという基準を設けさせていただいた。

また、厚労省の発表については、三重県主催にて、医療関係者、自治体職員が集まり、そこに厚生労働省の担当者を招き、病院、自治体職員が意見を述べる場を設けていただいた。そこでは、皆が、地域の事情を踏まえずに公表した等の意見を述べたところである。厚生労働省としては、地域の実情を考慮せず、公表したことは申し訳ないとのことであったが、地域医療構想会議の中で議論していただくために言ったものでもあるとのことであった。

- ・事業承継が大きな課題である。歴史ある物や市民に愛された店舗が無くなってきている状況が所々で起こってきていると思うので、行政とも情報共有しながらどう対応していくかが課題である。ひとつの市町にこだわらず圏域的に情報共有しながら、広域的に取り組むことが大事であると感じている。
- ・資料3の12ページ「創業に関する支援」では、事業承継、第二創業についても範囲としているのか。

⇒補助金のメニューとしては第二創業も対象としている。

事業承継については、三重県主催のみえ中小企業・小規模企業振興推進協議会の8月の会議でも議題にあがり、伊勢志摩地域の他の団体からも、中小の事業の承継について、マッチングをどのようにしていくかが課題とされ、そこについては広域で取り組んでいかなければならないという確認をさせていただいたところである。今後、引き続き取り組んでいきたいと考えている。

- ・観光客数については、25年の遷宮以降さほど落ちていない状態で、800万という数字を維持している。今後、オリンピック、国体が続くが、それ以降大きなものがないので、地域の連携を更に進めていかなければならないと思っている。また、熊野古道については、田辺市の観光では、外国人に向けての熊野古道というのを起爆剤として取り組んでいる。外国人向けガイドブックを作成しているが、ものすごく良くできている。伊勢市では問い合わせいただいても、広域での宿等の情報がないので、そういったものが本だけでなくインターネット等でも取りまとめられ、自分の知りたい情報が検索できるようになったらいいと考えている。三重県で動きがありガイドブックができてくると思うので、そういった物を活用しながら外国人を起爆剤として日本人にもまた行ってもらいたいと思っているところである。

- ・最近、鳥羽湾にクルーズ船が多くやって来るようになってきた。ダイヤモンドプリンセスという2,700名乗っている船が今年6回来ている。来年も7回来る予定である。乗客の3分の2か半分位は外国人であるため、1,500名から1,000の外国人が一気に降りて、鳥羽で観光をされる状況になっている。通訳が非常に必要となってきたため、ボランティアでお願いしたり有料で依頼したりと苦慮しているが、その中で、高校生、大学生のボランティアを受け入れている。それが非常に親切な対応で喜ばれている状況である。学校側に聞いても、子ども達にとって良いことであると伺っている。これは、観光と教育の連携のひとつであると思っている。行政間、産業間の垣根を越えて連携すると様々なことに取り組みたり、課題の解決が行えるのではと思う。
- ・漁業の現状について、異常気象の中で、水温が1～2度上昇しているため、魚が取れる時期がどんどん遅くなってきている。また、漁業者の高齢化と新規就労者も見つからないという状況である。
- ・事業を継続する方への支援の仕事をしているが、廃業する事業所さんが増えてきている状況である。商売を続けようとした場合、人口が減っていくと商売をしていけないので、定住、移住について今後も協議していただきたいと思う。
また、鳥獣被害について、山間部は非常に被害が増えている。被害の範囲が隣接地域に拡大していると思うので連携を取って進めていただきたいと思う。
- ・名古屋の旅行会社から、大学生のゼミ旅行のための企画をしているので三重県の南部地域で合宿施設のような宿とか文化体験ができるような場所があれば提案してほしいというメールをもらった。玉城町にはそういった場所がないので、地域活性化のためにも受入体制等ができればもっと観光客を誘致できると思う。